

客観的かつ、学生の学修意欲をたかめる 成績評価をめざして

授業別ルーブリックの活用について

高大接続・全学教育推進センター 曾根 健吾

既に各学部教授会前での FD ミニシンポジウム、本ニュースレター等で周知の通り、大学教育再生加速プログラム会議兼 YNU 教学マネジメントチーム会議において、平成 27 年度に全学的な「授業設計と成績評価ガイドライン」（以下、ガイドライン）を策定しました。

ガイドラインの要点を改めて整理しますと、大きく 3 点の要点があります。1 点目は、学生の学修成果を高め、主体的な学びを確立するために授業改善への PDCA サイクルの確立です。授業担当の先生方には授業改善の PDCA サイクルを念頭におき、特に成績評価において履修目標、到達目標に基づく厳格な評価をお願いしています。

2 点目は、全学的な成績評価の基準表の導入です。教員間の成績グレードに対する認識について理解を共有するとともに、学生も成績グレードのレベルを認識できるようにしました。成績評

価の基準表では、成績グレードと履修目標、到達目標との関係を明確にしました。また成績グレードの「秀」は、履修目標を超えて達成できたと認められる段階、すなわち授業内容を超えて主体的に学修したと認められる段階としています。

3 点目は、授業全体の評価項目と評価基準の関係を示す授業別ルーブリックの導入です。電子シラバス上で各授業担当の先生方に、授業別ルーブリックを平成 28 年度開講科目より入力していただきました。授業科目別に授業別ルーブリックを公開することにより、成績評価の基準を明確にし、学生に主体的な学修を促すことをねらいとしています。

本ニュースレターでは、3 点目の授業別ルーブリックについて、作成していただいた授業別ルーブリックの活用方法を一部紹介させていただきます。今後の授業におきまして、作成された授業別ルーブリックをご活用下さいますようお願い致します。

● レポート採点用のルーブリック例 ※評価項目の（ ）内は配点

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる（履修目標）	やや努力を要する	努力を要する（到達目標）	相当の努力を要する
① 論理性 (20 点)	根拠に基づいて、説得力のある正確な説明が多角的な視点からできている。	根拠に基づいて、説得力のある説明がほぼできている。	根拠を示して論理的に説明しようとしているが、一部論理的な説明となっていない。	データや引用は示し、自分の考えも述べているが納得できる論理的な説明となっていない。	まったく論理的な説明ができておらず、情緒的な文章が羅列されている。
(中 略)					
④ 引用文献、参考文献の扱い方 (7 点)	引用文献、参考文献ともに執筆要領で指定した方法通りに正確に記載されており、授業で取り上げたり紹介した文献以外も自ら調べ、取り上げている。	引用文献、参考文献ともに執筆要領で指定した方法で正確に記載されており、文中の引用箇所も明確である。	引用文献、参考文献は示されているが、執筆要領で指定した方法で掲載されていない点がある。	引用文献、参考文献は示されているが、インターネットの URL がほとんどである。	引用文献、参考文献が全く明示されておらず、剽窃の可能性が高い。
⑤ レポートの体裁 (7 点)		体裁が執筆要領に沿っており、段落区切りも適切で読みやすい文章になっている。	体裁は執筆要領に沿っているが、段落区切りや適切でない箇所がある。	体裁が執筆要領に一部沿っていない点がある。	体裁が執筆要領に全く沿っていない。
⑥ 文章表現の適切性 (6 点)		誤字脱字が一箇所もない。	誤字脱字が 1～5 箇所程度みられる。	誤字脱字が 5～10 箇所程度みられる。	誤字脱字が 10 箇所以上みられる。

授業別ルーブリックの活用方法

授業全体の評価基準と評価項目の関係を示す授業別ルーブリックには、様々な活用方法があります。ここでは2点紹介します。

① レポートの採点に活用

レポートの採点にかかる時間をもっと短くしたい、採点基準が1人目と30人目で変わってきていると思うことはないでしょうか。シラバスに掲載されている授業別ルーブリックの内容(評価項目、内容)をアレンジして、レポート採点用ルーブリックを作成することで、レポート採点に活用できます。具体的には、引用文献

の示し方、分量、論理性、などレポート課題の評価項目、基準は何かを、シラバス上の履修目標、到達目標を踏まえてルーブリックで示します。左ページは、レポート採点用のルーブリック例になります。5段階の評価基準は、授業別ルーブリックの評価基準と同じにします。

② 学生の学修に活用

ルーブリックを活用する利点は、教員の採点といった点だけでなく、学生が自らの学修に活用できるという点が挙げられます。ルーブリックが学生に対して公開されていることで、学修者である学生に学修の指針を与え、学修を進める中で自己評価を行う機会を設けることに繋がります。具体的には、レポートなどの課題や、試験の概要を示す際に授業別ルーブリックや採点用にアレンジしたルーブリックを受講学生に配布し、評価の観点と基

準を学生に明確にすることです。課題の作成や試験に向けた勉強において、学生自身が学修における課題を発見し、学修内容を自ら改善することに繋がります。その意味では、予め公開することに加えて、評価後にレポートなどの課題に添えて学生に返却することで、今後の学修にも有用な指針を与えることが期待できます。評価後の学生のフィードバックにも採点に使用したルーブリックを活用いただきますよう、お願い致します。

実際のルーブリックの活用例紹介

実際にルーブリックを授業で活用されている先生に、どのように活用されているか伺いました。

上野 誠也先生 (環境情報研究院教授)

専門:航空宇宙工学 担当科目:航行制御論、基礎振動論など

Q1. ルーブリックを、ご自身の授業でどのように活用されていますか？

A. レポートの採点で利用しています。具体的には、4課題の説明を文章で書かせるレポートです。出題時に採点に用いるルーブリックを学生に提示しています。評価項目は、取り上げた項目数や説明内容の正確さなどです。レポートを量と質の面から採点することを提示しています。採点は各課題に対して、ルーブリックの該当する欄に✓をつけることで行います。最後に、それらに重み付けをした合計でレポートの総合点をつけています。

Q2. 実際に活用されてみて、採点など評価にかかる時間に変化はありましたか？

A. 極端に減りました。第一点は1件のレポートの評価時間が減ったことです。今まではレポート全体を読んで総合点を付けていましたが、量の評価と質の評価を分離しただけでも採点時間が減ったのです。第二点は採点基準が明確になったことで、読み返すことが無くなりました。さらに基準が一定なので、短い空き時間に採点しても平等な評価ができるようになりました。結果として、全部の採点が終了するまでの期間も短くなりました。

Q3. ルーブリックによる評価を用いてみて、受講学生の反応はどうでしたか？

A. 好評です。アンケートをとってみました。9割以上の学生が、出題時にルーブリックを提示した方がよいと回答しています。何を意識してレポートを書くかというようにレポートを書く時の参考となるという理由が3割の学生から出ました。さらに、返却時に自分の不足点がかかるという理由もありました。今までレポートの採点基準が示されたことが無かったので、レポートの書き方が勉強できたというコメントもありました。

Q4. これから授業別ルーブリックを活用しようとしている先生方へ、ひと言アドバイスをお願いします。

A. まず第一点は、学生の自主学修を要求する最上位の評価に対して、対応できるように課題を設定することが必要です。私の失敗談ですが、レポートに字数制限を与えたために、自主学修内容が十分に記述できないというクレームを受けたことがあります。もう一点は、ルーブリックは教員の考えが学生に伝わる良い手段だと思います。ルーブリックを使うようになってから、質はよいけど量が少ないというレポートは無くなりました。

ご協力いただきまして、ありがとうございました。